

特集 チャレンジ 環境問題

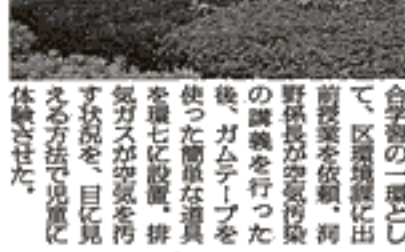
開閉を川に閉まれている私たちの足立区、河川は区民に大きな安らぎを与えてくれるが、中には、かつて汚染度ワーストとして全国的に有名になってしまった綾瀬川や、1歳河川でありながら、とろ川のような悪臭で嫌われる折川(がけがわ)もある。これらの川をきれいにしようと、足立区と区民のプロジェクトチームなどが知恵を絞って活動している。その他、空気を汚染する学習に取り組む学校もあり、環境問題への関心が高まっている。

区環境課の取り組み

【綾瀬川流域グリーン大作 関連施設の見学などをする戦】 同課では毎年秋、トシながら土手を清掃し、石川合流点のゴミをカウンスル。綾瀬川・毛長川・伝い。普通定を踏み入れられない地下体験に、参加者一同臭気味。最後に、補和英園近隣の折川導水放流口で、水質改善・水循環の復のための施設について学んだ。

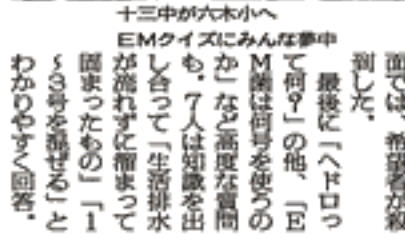


川の浄化について学ぼうと、環七の大通りにて実施する。



昨年の同ツアー

【出前授業】 東栗原小(小林野子校長)では、総合学習の一環として、区環境課に出前授業を依頼。河野校長が空気を汚染の講義を行った後、ガムテープを使った簡単な道具を環七に設置。排気ガスが空気を汚す状況を、目に見える方法で見聞に体験させた。



十三中が六木小へEMクイズにみんな参加

最後に「ヘドロって何？」の他、「EM菌は何号を使うのか」など高度な質問も。7人は知識を出し合って「生活排水が流れずに溜まって固まったもの」「1.5号を捨てる」とわかりやすく回答。

足立区と区民プロジェクトの取り組み

【折川シャブシャブ大作 鈴木久雄代表(神明上町会長)率いる同大作プロジェクト(平田浩之事務局長)は、熊玉湖の塊であるEM菌を投入して、折川を再生させる大事業。同プロジェクトが、区内7自治会・町会、地域活動団上昇、まどめとして第十三中、第十三中、一般市民、

足立民など2000人と協働で、昨年2万7000個のEM菌と約70トンのEM(次発酵液)を投入した。真夏に大集団が川に菌子を投げる姿は、川向こうの八潮市民には不気味に映ったらしく、警察や市役所に連絡もあったそうだ。その必死の活動が実を結び、当初測定値で19cmの透明度が、現在53・5cmへと上昇。まどめとして第十三中で開かれた地元報告会に



写真提供：平田浩之さん

学校の取り組み

【第十三中が六木小で環境指導】 六木小(入野津津子校長)では、総合学習として「折川から地球環境を変えよう」をテーマに環境習、マイクを持って飛び回る白井さんに、児童は感激に反応。実際に折川の水の透明度を測定する場面では、希望者が殺到した。

【折川シャブシャブ大作】 7人の卒業後も、六木小に頼もしい後継者が誕生し、環境づくりに取り組む。【実践活動功労者】 田中基樹、大崎政雄、足立義夫、小林英子、野口勝五(実践地区自治会)、竹の塚ハイビーク管理組合花と緑の会(生活学校優良メンバー) 金井久野子(第七地区)、桑原ユキ(同)、橋本好子(同)、萩原野子(第七地区)、須金信子(宮内アル(あだち第一))、渡邊アイ(同)、朝倉井出(同)、中谷孝子(同)、菅原さみ(同)、高橋ツネ子(足立第一) 【花いっぱいコンクール】 地域の部：最優秀賞：西新井第三団地自治会、優秀賞：竹の塚警察母の会古谷支部、梅田町会婦人部、優

環境づくり区民大会

清潔で安全なまちづくり 日常的な活動を通して清通の(敬称略)。

【花いっぱいコンクール】 地域の部：最優秀賞：西新井第三団地自治会、優秀賞：竹の塚警察母の会古谷支部、梅田町会婦人部、優